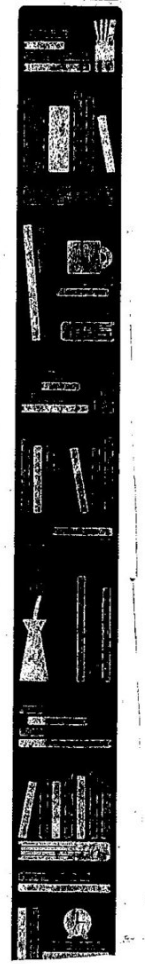
学ぶ 育む



No.2487 教育ルネサンス

学校防災を見直す 6

東日本大震災から9年を迎えた今、学校防災はどうあるべきか。防災教育に詳しい片田敏孝・東京大特任教授と、宮城県東松島市立中教諭として震災を経験した制野俊弘・和光大准教授に聞いた。

震災9年

東京大特任教授 片田敏孝さん

和光大准教授 制野俊弘さん

地域の大人が模範に

防災教育は何を目指すのか、原点に立ち返るべきだ。防災教育を学校現場だけに求めがちだが、教育論や技術論で語られることに違和感を覚える。

知識を教えることはもちろん必要だ。しかし、災害は知識の範囲外や想定以上のことが起こりえる。災害発生時の心がけとして有名な「おはしも」(押さない、走らない、しゃべらない、戻らない)であっても、被災状況によってはそぐわない場合がある。災害に応じて、子どもが自ら判断して行動に移し、自分の命を守り生き抜くことができる。そんな主体性を育てることが大切だ。

子どもは周りの大人たちの背中を見て育つ。たとえ学校でどれほど座学的な防災教育を行ったとしても、地域の大人たちがそれとは異なる行動をとっていれば、教育効果は期待できない。大人たちが自分でやっていないこと、出来ていないことを子どもたちに教えるのは難しい。

地域が災害に向き合う姿勢が子どもたちを育む。その意味で地域防災と防災教育は不可分だ。防災教育は学校で子どもたちに教え込むというより、地域防災を形成するプロセスとして捉えるべきだ。

教員の忙しさ解消を

東日本大震災の津波で多くの児童が犠牲になった宮城県石巻市立大川小の訴訟で、学校側の防災体制の不備を認め、「子どもの命を守る」ことを強く求めた判決が確定したのは妥当だろう。ただ、研修などを重ねて教員に防災知識と経験をしっかり根付かせるには、まず学校現場の忙しさを解消しなければならない。

私は2011年当時、東松島市立中の教員だったが、震災発生時は校外に出ていた。校内にいた生徒や教員は、教頭の指示で何とか無事に避難できた。

あの時は校長が不在だった。もし教頭もいなかったら、学校として適切な判断が下せなかったかもしれない。仕事の持ち帰りや土日出勤が常態化している教員が、防災マニュアルを読み込み、全てを把握するのは難しいからだ。

防災教育では、命について総合学習や保健体育、行事などで横断的に学ぶカリキュラムが必要だ。防災に限らず、基礎的な教養として、自分や他人の命を守る意識を身につけさせることも大切だろう。

余裕がない学校では子どもの命を守れない。教員の仕事を精選するにあたり、文部科学省には意識改革の先頭に立ってもらいたい。

＊この連載は岡本裕輔、江原桂都、中谷和義が担当しました。

学ぶ 育む

先生から キミたちへ

目標見据えて行動を

加藤悠さん 34
(東京都立東久留米総合高校保健体育科教諭、サッカー部監督)

君たちとサッカーができなくなって、間もなく1か月になります。8年ぶりに全国高校サッカー選手権大会へ導いてくれた3年生は、卒業式を終え、巣立っていきました。

3年生が主体だった全国大会は初戦敗退でしたが、その後、君たち1、2年生の目の色が変わりました。サッカーに真剣に向き合い、日に日に成長していく姿を見て、サッカーが好きだという気持ちが伝わってきました。

休校は本当に悔しい。早くみんなと部活がしたい。でも、この期間は選手として質を高めるチャンスと捉え、いま何ができるかを一人ひとりが考えてほしい。個々人が今後の目標を見据えて行動すれば、その先につながるはずです。

チームの目標は再び全国の舞台に立つこと。強豪校を相手に体を張ってプレーし、粘り強さを見せてくれた先輩たちに続こう。

体調管理をしっかり

吉田祥子(しょうこ)さん 29
(東京都立北特別支援学校教諭)

皆さん、体調は大丈夫ですか?

急に休校となり「何で先生たちに会えないの」と戸惑っていることと思います。先生も同じです。皆さんの健康を守るためだけど、一緒に授業ができないことが残念でなりません。

私は通学が難しい児童・生徒のために、自宅や病院に出向いて授業を行う「訪問教育」を担当してきました。いつもすてきな表情で迎えてくれましたね。学習にも全力で取り組む姿に元気や勇気をもらいました。だから、皆さんに会えなくて先生はパワー不足です。どれだけ皆さんに支えられてきたかが分かりました。

職員室では皆さんの話題でもちきりです。恋しくてたまりません。まだ会える日をとても楽しみにしています。それまでは家族や病院の方々との時間を大切にして過ごしてください。お互い体調管理には十分に気をつけて、また元気に会いましょう!

自信持って踏み出そう

松井孝安さん 65
(3月末で閉校となる大阪市立佃(つくだ)南小学校校長)

2月29日に予定していた閉校式は休校が始まって中止になりました。皆さんとの日々が突然、何もかも断ち切られたような感覚で、先生たちも気持ちをうまく言葉にできません。

在校生は4月からお隣の学校に通うことになりますね。今の学校は小さいけど、新しい学校では友達が増え、クラス替えもあります。環境の変化に戸惑うこともあるでしょう。でも、落ち込まないでほしい。君たちは乗り越えられます。上級生はお兄さん、お姉さんとして運動会など行事のたびに下級生を引っ張ってくれました。下級生はみんな素直です。少人数だったからこそ、周りの意見に耳を傾ける力もついています。

一つだけ心がけてほしいのは、積極的に自分の意見を言うこと。それさえできれば、十分やっていけます。自信を持って一歩を踏み出してください。成長を祈っています。

休校中の子供たちに向けて、教職員の方々からのメッセージを募集しています。氏名、勤務先の学校名、役職、年齢、電話番号、メールアドレスを明記し、400字以内で下の宛先へお寄せください。